

「暑さ寒さも彼岸まで」とは昔の話、これまでの常識では考えられないような気候の変化に翻弄されながらも、ようやく秋らしい季節を迎えました。1学期期末考査も終わり、文理・科目選択もひと段落した今、一年で最も落ち着いて勉強に集中できる季節、学校ではさまざまな学校行事が予定されています。秋の球技大会に、ずっと延期されていた運動会が加わり、さながらスポーツの祭典週間となりました。その後も芸術鑑賞、修養会、クリスマスと続き、12月には2学期中間考査があります。目の前の出来事に気を取られていると、本来の目標を見失いがちになりますが、今の自分にとって何が大切かを常に最優先に考え、基礎学力をしっかりと鍛えながら、将来に備えていきましょう。(阿部)

## 10～12月の予定

勉強の秋、力を蓄え



ステップアップ!

- 10月14日(金)⑥⑦奉仕活動(広瀬川清掃)
- 10月15・16日(土・日)夢ナビライブオンライン
- 10月21日(金)⑥総探 ⑦HR  
(特進)⑥到達度テスト振り返り会 ⑦HR
- 10月28日(金)⑥総探 ⑦HR
- 10月29日(土)(特進)土曜授業
- 11月1・2日(火・水)運動会・球技大会
- 11月5日(土)(特進・総進)総合学カテスト
- 11月7日(月)修養会(終日)
- 11月11日(金)⑥総探 ⑦HR
- 11月12日(土)(特進)土曜授業
- 11月18日(金)⑥総探 ⑦HR
- 11月19日(土)(特進)土曜授業
- 11月25日(金)⑥総探 ⑦HR
- 11月26日(土)(特進・総)GTEC アセスメント
- 12月3日(土)(特進)土曜授業
- 12月6日(火)～8日(木)2学期中間考査
- 12月9日(金)⑥総探 ⑦HR
- 12月15日(木)午前授業・芸術鑑賞(午後)
- 12月16日(金)6時間授業 ⑥総探
- 12月17日(土)(特進)土曜授業
- 12月19日(月)6時間授業
- 12月23日(金)午前授業①②③④  
⑤午後クリスマス ⑥閉講式・HR
- 12月26～28日(月～水)(特進)特編授業
- 12月26日(月)(総進・未来)冬期休業
- 12月29日(木)(特進)冬期休業

### 新課程の大学入試改革について

現在の1年生が大学入試を受験する2025(令和7)年度入試における新課程入試が明らかになってきました。すでに国立大学協会が「情報I」を原則として課すことを発表、国公立大学受験者の受験科目は原則6教科8科目となることが決定しています。つまり、ひとつ上の学年に比べると1教科分負担が増えることになります。配点・選択パターン等まだ発表されていないことも多く、今後の動向に注意していく必要があります。受験は情報戦です。変化の多い昨今、常にアンテナを高く張り巡らせ、自分にとって必要な情報を見極め、知識の更新に努めることが必要です。

### 大学入試制度の現在

大学入試制度は常に変化しています。親世代とは様変わりした大学入試制度を簡単にまとめました。大きく3つに分かれます。

- ①一般選抜: 大学毎に課せられる個別学科試験を受ける入試制度
- ②総合型選抜: 昔のAO入試。エントリーシート、小論文、プレゼン、面接、グループ討論、研修方式など、試験内容は多様。
- ③学校推薦型選抜: いわゆる推薦入試。評定平均値等の条件があり、学校長の推薦が必要。指定校推薦と公募推薦があります。  
→詳しくは「進路のしおり」をご覧ください。また、質問があればお気軽に担任・副担任にお声がけください。

### 成績票について(再掲)

今回公開された成績票における評価は、「考査」と「考査以外」の評価を合わせたものとなります。「考査」と「考査以外」で1:1の割合となり、評点は100点満点で、50点(考査):50点(考査以外)となります。「考査以外」には、小テスト、パフォーマンステスト、ノート・課題・レポート提出などが含まれ、**普段の取り組みが評価されます**。1学期末は仮評価となりますので、2学期の学習に全力を尽くし、成績の伸長に努めて参りましょう。

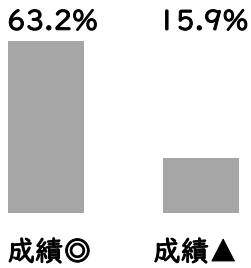
### 進研模試とスタディ・サポートを学習の道しるべに!

模擬試験は弱点を克服する絶好の機会。成績票はそのために必要な最重要資料とお考えください。返却された成績票は親子でぜひ隔々まで目を通してください。今思った通りの成績が出ていなくても、落ち込んだり、怒ったりする必要はありません。次に何をすべきか、何から始めるべきかを冷静に見極め、焦らず、諦めず、夢に向かってたゆまぬ努力を続けていきましょう。

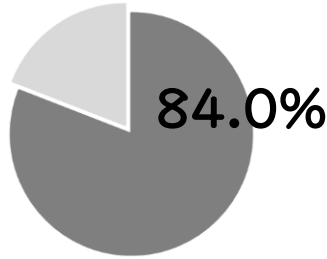
## 学力の向上=学習の量×学習の質

学習に集中できる時期。落ち着いて学習に取り組める今、学力を伸ばすためには、どのような学習を心がければよいでしょうか。以下は、学習の「量」と「質」に関連する全国の先輩方のデータです。

### <学習の量>



### <学習の質>



平日1時間30分以上勉強している  
成績◎と成績▲の割合  
45%以上もの差が!

ただ暗記するのではなく、  
理解して覚える成績◎の割合  
多くの成績◎が「理解」を大事にしている

これらからもわかるように、学力の向上には、学習の「量」と「質」の2点を両立させた学習習慣が求められます。サクセスノートをフル活用して、2点を両立させた学習習慣を確立させましょう。

## 学習の「量」と「質」を両立するために 取り組みたいこと

- ① **学習スケジュールを立ててみよう!**  
学習時間がどれだけ確保できるかを確認し、毎日学習する習慣を定着させましょう。学習開始時間を固定すると、学習時間を確保しやすくなります。
- ② **「なぜ」を繰り返して、徹底的に理解することを心がけよう!**  
「わかったつもり」をなくし、理解を深める学習を心がけましょう。  
わからないことをわからないままにしないこと!  
思い切って戻るべきところに戻り、  
理解したうえで、暗記すべきことを暗記しましょう。

データは、2020年度スタディーサポート1年生第2回全国集計結果より。「成績◎」はGTZ(学力):S1~S3(難関大合格レベル)、「成績▲」はD1~D3(基礎・基本養成レベル)の生徒の平均回答率。※「GTZ(学力)」は、学力の到達度をS1~D3の15段階の大学群で表示したものです。

**先生方からのメッセージ** 急速に秋が深まってまいりました。変わりゆく季節の中で変わらないものを目指して、自分を信じて一歩、また一歩と前進してまいりましょう。10月はロザリオの月、これからの社会を築く皆さんのあゆみを、聖母マリアがお守りくださいますように。(柚木校長) 10月からは、残り半年の高校1年生の生活です。多くの方が通学や授業にもだいぶ慣れてきたことと思います。できたゆとりを将来のことを考えたり、スキルアップに努めたりする時間に使うなどして、より一層目的意識をもった高校生活にしてほしいと思います。(伊東主幹教諭) 文理選択・科目選択も終わり、自分の進むべき方向性が定まってきたのではないだろうか。後戻りはできない。後戻りすれば大変な時間のロスになる。覚悟を決めて、日々の生活のなかで学習の継続を心がけよ。(小野寺進路部長) 入学してから6カ月が過ぎました。高校の授業内容、部活動などのペースが掴めてきたところだと思います。次年度のコース・科目の選択をし、将来自分が何を学んで行きたいか見えてきた生徒もいると思います。その将来の夢を叶えるために、今何をすべきかしっかり考えて行動しましょう。一度きりの人生、時間を無駄にせず充実した生活を送れるように準備をしっかりして欲しいと思います。(鈴木) 学校には少し慣れましたでしょうか。なかには、心が少し疲れたと感じている人もいるかもしれません。そんなときは、そっと本を開いてみてください。普段の日常とは違う心の旅行が出来ます。そして、2年生に向けて「自分らしさ」を大事にしながら、生活や勉強のペースを形成して、目標に向かって一緒に遠慮せずに進んでいきましょう。(橋本) 最近は、朝晩と涼しくなり、秋らしい過ごしやすい季節になってきましたね。「〇〇の秋」とよく言われますが、秋と言えば何をイメージしますか。食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋など、色々な言葉が思い出されますが、ぜひ「読書の秋」を楽しんでください。一冊の本との出会いが、人を成長させ、人生を変えるきっかけになる場合があります。まずは、図書館や本屋さんなどで、自分が興味のある本を見つけてみましょう。(若松) どんな目標であっても達成するまでの道程は辛く厳しい。走り続けるためには心に火を灯し続けながら、毎日続けること。緩急をつけながら、とにかく走り続けることだ。息が切れて苦しいときは迷わず立ち止まって、家族、友人、先生、誰かと話をしよう。そしてまた走り出そう。(阿部) 高校に入学して何か夢中になれることに出会えましたか? 今まで興味がなかった分野に飛び込んだり、やったことがないことにチャレンジしたり...その勇気が自分を成長させる大きな第一歩かもしれません。後半も皆で頑張ってください!(佐々木) 残り半年で1学年が終わります。時がたつのは本当に早いです。この半年で皆さんは何に挑戦しますか? 悔いの残らない過ごし方をしていきましょう。(石川) そなたが鍛錬し培い、身につけたものはそなたのもの。一生の宝となるもの。されどその宝は、分かち与えるほどに、輝きが増すものと心得よ。(伴虚無蔵)

題号「Break Out of Your Shell」には、生徒たちひとりひとりが学びの楽しさを知り、自分の殻を破って外へと飛び出し、大空に向かって羽ばたいて欲しいという願いを込めました。自分で限界をつくらずに、ひとつひとつ壁を乗り越えていきましょう。わたしたちはいつでも後ろで見守っています。